



越前町
ECHIZEN

2005. 8. 1
創刊号

議会だより



県立ホッケー場を視察

おもな内容

☆議員紹介	2
☆一般質問	4
☆こんなことを審議しました	9
☆議会の動き	10



宮崎小学校を視察

議会広報紙「議会だより」の 発刊によせて

越前町議会議長 渡辺 恵

越前町議会の広報紙「議会だより」の刊行に際し、一言ごあいさつを申し上げます。

平成十七年二月一日に合併し、新生「越前町」

の誕生から早半年が経過いたしました。この間、三月十三日には、町長選挙と町議会議員選挙が行われ、新しい町長と二十人の議員が選出されました。

そして、三月定例会、臨時会が招集され、議会構成や人事案件の決定で体制が確立し、さらに行政の停滞を防ぐため、暫定予算を編成してのスタートとなりました。去る六月定例会では、平成十七年度の本格予算が慎重に審議・議決され、ここにきて、ようやく新生「越前町」が動きはじめました。

議会議員は、町民の皆さん

様から負託を受け、執行機関とともに、越前町の舵取りを行っており、議会審議を通してその責務を果たしております。

今回発刊いたします「議会だより」は、常に開かれた議会を目指す観点から、町民の皆様にその活動の様子をお伝えする役割を担っております。

何分にも、議員手作りの広報紙でございますので、編集や紙面の内容に不備なところも多々あろうかと思われますが、ご寛恕下されば幸いと存じます。

これからも、町民の皆さんとともに「人と技・海土里織りなす快適なまち 越前町」を目指して邁進して参りたいと思っておりますので、皆様の更なるご指導をお願い申しあげ、「議会だより」の発刊にあたってのご挨拶をいたします。

越前町議会構成

◇丹生衛生管理組合議会議員（5人）

渡辺 恵 久保 昌義 上杉 力
北野 正勝 齋藤 洋一

鯖江・丹生消防組合議会議員（4人）

鈴木 文夫 木村 繁
島田 欽一 青柳 良彦

鯖江広域衛生施設組合議会議員（4人）

山本 清道 金矢 黙
武藤 吉明 佐々木敬三

福井県丹南広域組合議会議員（4人）

安井 賢二 時田修一郎

◇総務常任委員会（9人）								
◎井上 信雄	○時田修一郎	久保 昌義	○田中 太平	吉村 春男	上杉 力	島田 欽一	佐々木敬三	山本 清道
○堀 弘忠	○北野 正勝	鈴木 文夫	安井 賢二	吉村 春男	鈴木 文夫	青柳 良彦	武藤 吉明	金矢 黙
渡辺 恵	北野 正勝	鈴木 文夫	上坂 昭夫	吉村 春男	上杉 力	島田 欅一	佐々木敬三	鈴木 文夫
木村 繁	村上 義人	島田 欅一	山野 幹夫	鈴木 文夫	鈴木 文夫	鈴木 文夫	武藤 吉明	島田 欅一
橋本 剛一	北島 忠幸	北島 忠幸	鈴木 文夫	島田 欅一				
金矢 黙	安井 賢二	安井 賢二	上坂 昭夫	吉村 春男	吉村 春男	吉村 春男	吉村 春男	金矢 黙
○上坂 昭夫	上坂 昭夫	上坂 昭夫	山野 幹夫	鈴木 文夫	鈴木 文夫	鈴木 文夫	鈴木 文夫	○上坂 昭夫
○北瀬 良春	齊藤 洋一	齊藤 洋一	佐々木敬三	佐々木敬三	佐々木敬三	佐々木敬三	佐々木敬三	○北瀬 良春
山本 清道	山野 幹夫	山野 幹夫	○上坂 昭夫	山本 清道				

公立丹南病院組合議会議員（4人）

橋本 剛一 田中 太平
北島 忠幸 村上 義人

監査委員議会選出議員（1人）

北野 正勝

農業委員会委員議会推薦議員（1人）

武藤 吉明

議会運営委員会（6人）

○藤井 文夫 ○田中 太平

農業委員会委員議会推薦議員（1人）

○金矢 黙

監査委員議会選出議員（1人）

武藤 吉明

議会広報委員会（8人）

○藤井 文夫 ○田中 太平

監査委員議会選出議員（

議員紹介



木村 繁
(蟬 口)



村上 義人
(梅 浦)



島田 欽一
(大 檜)



佐々木敬三
(萩 野)



青柳 良彦
(西田中)



鈴木 文夫
(織 田)



北島 忠幸
(織 田)



山野 幹夫
(高 佐)



武藤 吉明
(樺 津)



北野 正勝
(織 田)



金矢 勲
(高 佐)



齊藤 洋一
(厨)



上坂 昭夫
(大王丸)



井上 信雄
(江 波)



安井 賢二
(小 倉)



時田修一郎
(朝 日)



上杉 力
(小曾原)



山本 清道
(柄 川)



北瀬 良春
(新 保)



橋本 剛一
(田 中)



田中 太平
(小曾原)



渡辺 恵
(上糸生)



藤井 文夫
(頭 谷)



堀 弘忠
(上山中)



久保 昌義
(佐々生)



吉村 春男
(新 保)

6月定例会一般質問

合併により職員は削減されるのか



田中太平

の新規採用を見込みました。

職員削減の事由はどうな見解に基づくものか。

算出方法は、六十歳を定年として年度ごとの予定退職者数と、毎年三名

答 町長
計画では、平成十七年度で三八六人、平成二十二年度で三七四人、平成二十六年度で三三三一人となっています。

問 定員適正化目標職員数の計画はどうなっているのか。またその算出方法はどうか。

答 町長
三八六人となっています。

問 職員数は条例では四一二人となっているが、実態はどうか。

答 田中太平
職による影響は、平成何年頃から始まるのか。



役場受付風景

答 町長
職員削減の方策についてどのように考へているのか。

また、職員の定年は、条例では六十歳となつてゐるが、男女とも共通か。

問 職員削減の方策についてどのように考へているのか。

答 町長
平成二十年頃から始まります。

問 団塊世代の職員も多いと思うが、退職による影響は、平成何年頃から始まるのか。

答 町長
本町では、十五年間で約百人程度の削減となるので、國の方針を上回ることになります。

補助金の見直しなど国の中でも、合併による行政の合理化、効率化によって職員数を抑制し、人件費などの経費節減を見込むものです。

は、旧町村において男女間の格差があつたので、中長期的に格差を無くしていきたいと考えております。

答 町長
職員削減の方策ですが、五十五歳から五十歳未満の職員で退職希望者を勧奨退職扱いとして対応します。

答 町長
そうならないため、公務能率と、行政サービスの向上に配慮しながら本町の実情に応じて、簡素で効率的な行政体制の整備を図りたいと思いま



予防対策を実施するための基礎的資料である。



福井豪雨時の天干川



防災訓練

管理上の職員削減ではなく、事務事業の再編整備、廃止統合、民間委託の推進のほか、給与の適正化、第三セクターの見直しなど経費削減等のトータルしたプランが必要であると思っております。また、職員の能力と主体性を最大限に發揮させ、組織としての成長に結びつけることは重大なことと考えます。

答 町長 行革イコール定員 管理上の職員削減ではな

町長は、今年二月、新聞のインタビューで「行革イコール人減らしとは思わない。」と答えていたが、その見解を伺いたい。

町の防災計画は万全か

誘導・指揮命令系統など多くの課題を残した。

住民の防災意識を高め、有効な「ハザードマップ」を作成する。すると考
えてみると、所見を伺いたい。

昨年立て続けに風水害に直面したが、特に台風23号接近時の朝日地区における避難勧告発令については、周知徹底・避難

問 安心・安全なまちづくりを進めるなかで防災面の洪水ハザードマップについて聞いたい。

問

洪水ハザードマップは
地域の危険箇所の分布や、
防災施設・活動用資材の
所在・避難ルート・避難
場所・持ち出しリストな

職員の能力と主体性を最大限に發揮させ、組織としての成長に結びつけることは重大なことと考えます。

の基礎的資料である。

問
町長は、今年二月、
新聞のインタビュー

答
洪水 町長

洪水ハザードマップの取り組みについては、現在国や県とよく協議をしており、先進的な町村を調査しながら、住民の皆さんにわかりやすい洪水ハザードマップを一日も早く作成してまいりた
い。

策をどのように考へてい
るのか。

答
地域町長

（行）地域防災力を高めるためには、常に住民が参画する自主防災システムの育成がきわめて大事であります。

越前町においても、できるだけ早く自主防災計画を策定しなければならないと考えております。

問
全国各地で自主防災組織ができてい

織田病院の拡充を



堀 弘 忠

の充実を図り、二次医療圏機関としての拡充、患者カルテのデータベース化や情報ネットワークを活用した地域医療システムの確立を図るなど、救急指定病院として新町の人口から、一百五十床に拡充すべきである。一般病床の増床等早急に取りくみ、小児科、眼科、療養型、回復期リハビリ病床等ベッド数を増設すべきと考えるが見解を伺いたい。



織田病院

新町建設計画では
診療科の増設および増床
が明示されています。し
かし、「第四次県保健

況にあります。今後町民が多様な医療サービスを受けられるよう次期県保健医療計画改訂の中で基準病床数の増加を強く要望してまいります。現在、

問 末期がん対策として療養するホスピス、小児科、婦人科の対策について伺いたい。

答
町長
ホスピスについて
は療養型介護施設の中で

ています。小児科については出来れば今後専門医を二名に増員し、病児保育、病後児保育も行いたいと考えています。さらに女性が専門に相談できる外来機能も充実してまいりたいと思います。

町は、原子力発電所の準立地域に指定されており、災害時の診療機能の整備を含めて、緊急医療体制作りと町民の健康、安全等、公立病

医療計画」では「丹南二
次医療圏」においてはベツ

自治体病院施設センター

院のあるべき体制について伺いたい。

など新たな課題に対応することが求められており

作成を委託しております。その結果を基に十分検討して機能拡充を図ってまいります。

答 町長
県では、原子力災害発生時に対応する為に

保健・医療・福祉の分野
に精通している医師が中
心となってこれらを検討
し、住民へより上質のサー

療体制等整備を図る計画を示しております。また「初期被爆医療支援機関」として丹南病院が指定されています。今後織田病院も指定を受けるべく要望をしたいと考えております。

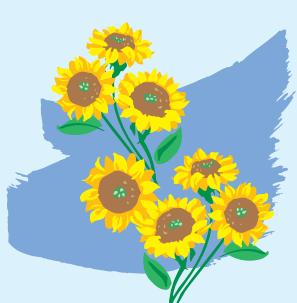
要と考えます。各種事業を円滑に運営していくために織田病院の医師の協力を得て保健・医療・福祉との連携を図り、福祉センターに専門的な立場から指導出来る体制の整備を早急に検討してまいります。

ターに専門的な立場から指導出来る体制の整備を早急に検討してまいります。

問 保健・福祉の指導 の充実に関するよ

問 保健・福祉の指導の充実に関しては現在の多様な病態に適切に対応する為、住民の健康管理等を把握している医師を、町立保健福祉センターのスタッフとして参画させ指導できる体制を早急に検討されたい。

答
町長
保健福祉センター
について、「予防重視型システムへの転換」「地域密着型サービスの創設



自然を生かした まちづくりを！



久保 昌義

いきたいと考えております。

問 民生理事

宮崎地区では、平成六年度より、環境改善

を目指し、EM菌による発酵堆肥のボカシづくりが始まりました。それに

より、安全な有機農業の

ほか、家庭からの污水の淨化、悪臭の防止、生ゴミの堆肥化と自然への還元、下水処理場の悪臭防

止や、放流水の改善、汚泥の軽量化の効果があり

ました。また、美味しい農作物づくりにも効果があ

ることから、地産地消の給食材料に活用され、

さらに、学校、保育所のプールをはじめ公的施設

の清掃時にも効果が見ら

れました。

EM菌は、コストが高

い点や大量生産ができな

いなど的一部問題点があ

りますが、その活用と普

及には今後とも努力して

問

自然循環に優しいEM菌の活用について、その取組み方法について伺いたい。

答

町長

新町のシンボルとして町の「花」、「木」、「鳥」を早急に制定してはどうか。

合併協議会では合併後に定めることになりました。町の歌や町民憲章を含めたこれらの制定に伴う検討委員会を、役場庁舎内に設置して早急にすすめたいと考えております。

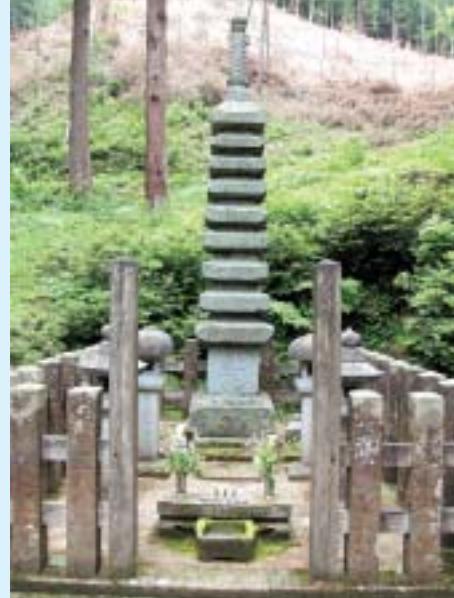
答 産業理事

基本的に、新町

建設計画に詳細に記載されていますが、農業では、水仙のオーナー制度、押花、しいたけ植菌と收穫、たけのこ堀り、ブドウの収穫体験、梅オーナー制度など、漁業では定置網、イカ釣りなど、陶芸

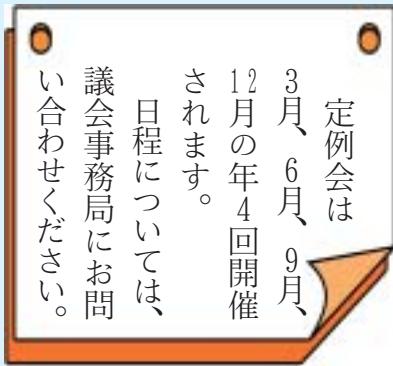
村では、陶芸体験などが

でき、史跡や文化施設とのネットワーク化については、新町で一貫的なパンフレットを作製してPRに務めたいと思っております。



大谷寺 九重の塔

議会を傍聴して
みませんか



町民の“足”確保を図れ



吉村春男

とは、極めて憂慮すべき事です。

この路線バスとの話し

合いは、会社の経営問題も絡んでくる話であり非常に困難です。

路線バスの運行状況については、京福バス、福

鉄バスから「かれい崎発田原町行」を赤字

路線のため廃線にしたいと申し出があった。

町民の非常に大きな話題になった。

福井へ行くにもバスと電車を乗り継いで時間がかかりすぎる。再度福鉄バスと話し合いは出来ないか。

答
町長

越前町の一体感、融和のためには、どうしても足が欠かせないと強く思います。交通弱者と言われる方の足がないこ

が現状です。



織田バスターミナル

昨年六月、かれい崎か

おられます。

ら福井方面へ直通運行していた路線が廃止され、福井方面へ行くには、神明駅での電車への乗り継ぎが必要となり、時間がかかるようになったこと

は事実です。

今後コミュニティバスの運行を考える上で重要な検討課題として取り組んでいきたいと思って

おり、組合協議時の住民ア

ニティバスについては全地区で運行されており

福祉バスについては全地区で運行されており、十分協議して頂きたいたい。

福祉バス、コミュ

朝日地区では「泰澄の杜」と「幸若苑」の利用の便を図るため、地区内に7コースの路線が設定され、1コースあたり往復1~4便の福祉バスが運行されています。

宮崎地区では「陶寿園」の利用の便を図るため、毎週火曜日~金曜日まで地区内を午前と午後の2便運行。

越前地区では「なぎさの湯」利用の便を図るた

め、毎週火曜日と金曜日に米ノ梅浦間を往復1便の福祉バスが運行されております。

織田地区では「保健センター」「織田病院」をはじめ、その他の公共施設の利用の便を図るため、

11コースの路線でほぼ毎日地区内を福祉バスが巡回しております。

新町のコミュニティバスが運行するまでの間は、合併協議に基づきまして、

旧町村のまま運行しているのが現状です。

次に、新町のコミュニ

ティバスの運行計画について合併協議時の住民ア

ンケートにおいて、「路線バスの維持・充実」があがっていることから、新町建設計画においても

「町内における移動手段として、コミュニティバ

スを運行し、住民の「足

の確保を図る」とされ

ており、新町の重要施策の一つと位置づけており

ます。

本年度において、コミュニティバス導入意向アンケートを実施し、地域交

通活性化検討委員会によ

る「コミュニティバスの運

行計画」を策定し、関係機

関との協議が整えば年度

内に試験運行をしたいと

考えております。

コミュニティバスの運

行にあたっては、児童生徒の通学及び一般住民、高齢者等の公共施設の利

用や通院等の便宜が図れるよう、総合的な見地に立って検討したいと思つております。

議会の動き



越前陶芸まつり 開催式



地域安全パトロール出発式



越前夏まつり

「人と技 海土里織りなす
快適なまち」をスローガンに誕生した「越前町」も既に半年。
二万五千人余の人達が、それに夢と希望を抱きながら見守っています。

その中で、越前町議会の広報紙、「議会だより」の創刊号を、ようやく町民の皆様にお届けすることができました。

この「議会だより」では、越前町議会の動きを「より身近に」「よりわかりやすく」「より正確に」をモットーに、編集していくべきないと思っています。まだまだ手探りの状況ですので、是非ともご意見・ご要望をお寄せ下さい。

編集スタッフ一同、町民の皆様に親しまれる紙面づくりを心掛け、精進して参りますので、ご愛読のほどよろしくお願ひいいたします。
(藤井)

編集後記